

観光立国推進基本計画改定に向けて (本邦航空業界要望)



理事長 大塚洋

目的

航空運送事業に関する諸般の調査、研究等を行い、我が国航空運送事業の健全な発展を促進する

主な活動

- ・航空運送事業に関する調査、研究
- ・政府、国会、政党等に対する陳情、要望
- ・航空利用者等への広報活動
- ・法務関係諸問題に関する事項 等

役員

会 長	鳥取 三津子	日本航空(株) 代表取締役社長執行役員
理 事	井上 慎一	全日本空輸(株) 代表取締役社長
理 事 長	大塚 洋	
監 事	本間 啓之	日本貨物航空(株) 代表取締役社長
	前澤 豊	アイベックスエアラインズ(株) 代表取締役社長

会員企業

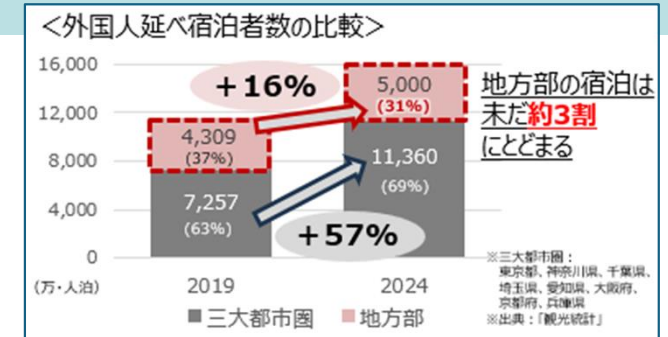
19社(2025年7月時点)

 JAL JAPAN AIRLINES 日本航空株式会社	 ANA ANAホールディングス株式会社	 ANA 全日本空輸株式会社	 NCA Nippon Cargo Airlines 日本貨物航空株式会社
 JAL JTA JAPAN TRANSOCEAN AIR 日本トランスオーシャン航空株式会社	 JAL JAC 日本エアコミューター株式会社	 AIR DO 株式会社AIRDO	 AIR JAPAN 株式会社エアージャパン
 Solaseed Air 株式会社ソラシドエア	 STARFLYER 株式会社スターフライヤー	 ANA WINGS ANAウイングス株式会社	 JAL J-AIR 株式会社ジェイエア
 SKY スカイマーク株式会社	 FDA FUJI DREAM AIRLINES 株式会社フジドリームエアラインズ	 FLY WITH SMILE SPRING JAPAN スプリング・ジャパン株式会社	 peach Peach Aviation株式会社
 Jetstar ジェットスター・ジャパン株式会社	 IBEX アイベックスエアラインズ株式会社	 ZIPAIR 株式会社ZIPAIR Tokyo	

訪日外国人旅行者数6000万人・消費額15兆円達成に向けて、受け入れ体制の強化が喫緊の課題

① 地方への誘客

- ・飽和状態の都心部から地方への誘客が喫緊の課題
- ・訪日旅客の国内流動は限定的
- ・国内観光の停滞
- ・アウトバウンドの低迷（コロナ前比で6割程度）



② グランドハンドリングを中心とした人材不足

- ・コロナ禍、他業種への流出などにより激減
- ・現在、コロナ前水準に戻りつつあるが、人口減少による担い手不足は中長期的課題



※出展：第11回持続的な発展に向けた空港業務のあり方検討会

③ 国内線事業の悪化・投資余力の減退

- ・国内線の構造変化、コスト高により経営圧迫
- ・省人化、環境対応の遅れ
- ・航空機、グランドハンドリング機材の更新・増強



④ 航空機燃料の供給不足

- ・安定した供給量確保への懸念、給油作業員不足

①国内流動の拡大 ～地方誘客の促進～

- ✓ インバウンド旅客の地方誘客の促進
- ✓ アウトバウンドの推進
- ✓ 多様な休暇取得の推進、旅行需要の平準化
- ✓ 国内線事業の構造改革
- ✓ 二地域居住の推進等による新たな移動需要の創出

②空港受け入れ体制の抜本的強化 ～ストレスフリーな観光の実現～

- ✓ 訪日旅客の地方誘客のための国内線空港の受け入れ体制強化
- ✓ グランドハンドリング機材の増強・更新・自動化による効率化
- ✓ グランドハンドリング人材の確保・養成
- ✓ 厳格で円滑な出入国管理の推進



自動牽引車



スマートレーン

③空港の革新的イノベーション ～ゲートウェイとしての機能強化～

- ✓ ショーケースとしての首都圏空港の自動化、無人化の推進
- ✓ 先進技術の研究開発、実装に向けた環境整備
- ✓ 成田空港をはじめとする首都圏空港の機能強化
- ✓ 空港アクセスの充実

無人化が進むシンガポール チャンギ空港



オランダ スキポール空港の手荷物積付ロボット



④安定した航空機燃料の確保

- ✓ 安定した供給量の確保・給油体制の見直し

事例 1 – アムステルダム・スキポール空港

2024年旅客数 66.8百万人



自律的空港(Autonomous Airport)、世界一のサステナブル空港を目指し、AIなどのテクノロジー活用を積極的に進めている。
特に手荷物に関する取り組みで業界をけん引している。



バゲージロボット

2週間の実証実験を経て2023年に19機のバゲージロボットを導入。韓国の真空吸入管技術を活用し、およそ70kgまでの荷物持ち上げることができ、80-90%のバゲージに対応。作業員負担を大幅に軽減している。



実証実験中 - 全自動バゲージ運搬車

乗り継ぎ時間に余裕のあるバゲージが搭載されたコンテナを出発時間まで空港内の“バッファエリア”に移動させる無人運搬車。規定時間になると自動で仕分けエリアに戻す仕組み。



コンピュータビジョンによる情報収集

乗客や貨物の積み降ろしや燃料補給などの状況をモニタリングし、再び出発するまでの時間や受託手荷物の返却までの時間を正確に把握。



事例 2 - シンガポール・チャンギ空港 (SIN)

2024年旅客数 67.7百万人

FAST (Fast And Seamless Travel)システム

チェックインから搭乗まで、全て自動で完了する仕組みとなっている。2017年より導入。



チェックイン



手荷物受託



出国審査

パスポート+指紋+顔認証で通過

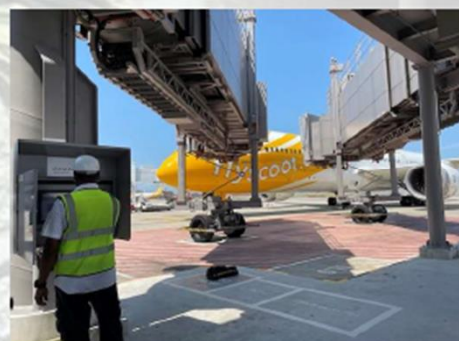


搭乗

搭乗券+顔認証で通過



保安検査におけるAI技術の活用
検査時間5割短縮



旅客搭乗橋のドッキング
プロセスの自動化
作業時間を2分未満に短縮



無人化の進んだターミナル4

出典：チャンギ空港ホームページ